

CHOPIN POLONAISES

Ikuko Endo Piano Recital

1965年、第7回ショパン国際ピアノコンクールにて特別銀賞を受賞して以来、ポーランドとは強い絆で結ばれてきた遠藤郁子が、日本ポーランド国交樹立100周年を記念してショパンのポロネーズに挑みます。ポロネーズはマズルカと並ぶポーランドの代表的な民族舞曲です。ショパンはこの舞曲を素材に、壮大なポーランドの栄光と悲劇の歴史を描きました。今回は、「軍隊」「英雄」「幻想」などの名曲を含む生前出版された全7曲(第1~7番)と、若き日に書かれた遺作3曲(第8~10番)、さらに名作として名高い「アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ」を演奏いたします。溢れる故国への深い想いを託したショパン畢生の傑作、ポロネーズの世界をご堪能ください。

遠藤郁子 Ikuko Endo

「90才の人生で初めて靈感で弾かれたショパンを聴いた(20世紀最後の巨匠ヴラド・ペルルミュテル)」、「イクコ・エンドウ偉大なるピアノの才能(巨匠アルトゥール・ルビンシュタイン)」、「今までイクコ・エンドウほど感動させられたピアニストはいない(ロンドン・デイリーテレグラフ紙)」「日本人唯一のショパン弾き(ワルシャワ・フィル音楽総監督カジミエシュ・コルト)」「50才を過ぎて咲いた花は人の命をも救う(人間国宝・金春信高~松本サリン事件の奇跡に際し)」「天啓の音(文化功労者・畑中良輔)」と世界から絶賛される遠藤郁子の演奏は、「作曲者の魂を伝えるピアニスト」として内外に根強いファンを持つ。

札幌にて3才よりピアニストの母、遠藤道子(ポーランド文化功労勲章、文部省地域功労賞、北海道開発功労賞、北海道文化賞、他受賞多数、日本ショパン協会北海道支部創設者)に音楽の手ほどきを受け、東京芸術大学附属高校へ入学後、毎日新聞社主催「日本音楽コンクール」で北海道出身者初の受賞。東京芸術大学に入学後、1年の時に「安宅賞」を受賞し、日本代表として第7回ショパン国際ピアノコンクール(1965ワルシャワ)に出場し特別銀賞を受賞、一躍注目を集め、オストロクシキ宮殿でのデビューリサイタルで「偉大で小柄な日本娘」のタイトルで絶賛された。ポーランド国営テレビ・ラジオに録音多数。世界的ショパン奏者ステファンスカ夫妻に見出され、その内弟子として5年間更なる研鑽を積む。1974年からパリ在住。ヴラド・ペルルミュテルにラヴェル全作品の指導を受け、フランス国営テレビ・オーディションにて最高位を認め、同局に録音を残す。その間、激賞されたロンドン・デビュー、パリ・デビューの他、北米、旧ソビエト、ハンガリー、ルーマニア、東ドイツで演奏。特にユーゴスラビアには毎年招かれ、巨匠アルド・チッコリーニの夏期講習(オフリッド)を受け継ぎ、長年にわたり講師を務めた。その功で、オフリッド25周年功労賞



写真・佐藤雅英

を受賞。帰国後は、東京芸術大学講師、聖カタリナ大学客員教授を務めるかたわら活発な演奏活動を行う。特にCD「ショパン序破急幻」が松本サリン事件で植物人間状態となり眠り続けた女性の意識を覚醒した奇跡は、連日マスコミで大きく報道され、東京サントリーホールでのチャリティコンサートで収益600余万円が、5,000人のサリン患者のため寄付された。これまで共演したオーケストラは、ワルシャワ・フィル(定期)、クラクフ・フィル(定期)、ハンガリー国立フィル、グルノーブル市立オケ、N響、読響、日フィル、新日フィル、東響、東フィル、都響、札響、京響、大フィルなど多数。また、ショパン国際ピアノコンクールをはじめ多数の

音楽コンクールの審査員を務める。NHK教育テレビ・NHKラジオの番組「こころの時代」に幾度も出演し、自らの人生を通じて「こころ」の問題についても語っている。CD、著作多数。2000年にはポーランド国家プロジェクト「ショパン全曲演奏」(於東京・上野旧奏楽堂、ポーランド大使館・同奏楽堂共催)の演奏に対して、ポーランドのショパン年実行委員長(文化芸術大臣兼務)からショパンのブロンズ像を授与された。

2014年にはデビュー50周年を迎え記念リサイタルを札幌と東京で開催。2015年にはポーランド共和国の文化功労者としてコモロフスキ大統領から直々にポーランド共和国聖十字功労勲章を受勲する。日本ショパン協会理事。NPOまざるか北海道理事長。遠藤道子記念音楽館館長。

ピアニスト遠藤郁子が、北海道の音楽界の礎を築いた、母、遠藤道子を語る。

「母・遠藤道子(仮題)」遠藤郁子

(北海道新聞社刊) 8月下旬出版予定